

【第5回 大仙市都市計画マスタープラン 委員会】 平成21年6月10日（水）

1. これまでの経緯

前回の委員会後、大仙市都市計画マスタープラン（案）を作成しました。その後、パブリックコメント、市民からの意見募集を行いました。

	日時	議題	主な意見
第1回 作業部会	平成19年 10月25日	・策定の目的・進め方	—
第2回 作業部会	11月7日	・大仙市の現況課題	・マスタープラン成果イメージの問合せ
第1回 幹事会	11月21日	・策定の目的・工程 ・大仙市の現況課題	・マスタープランの取り扱う範疇の明確化
第1回 委員会	12月3日	・策定の目的・進め方 ・大仙市の現況課題	・策定委員会の公開 ・市全域に恩恵のあるマスタープランとすべき ・課題に関するキーワード（広域連携、都市と農村の共存、産業基盤、高齢者の移動手段、観光振興、市民力の活用等）
第3回 作業部会	平成20年 1月25日	・都市づくりの理念・目標・将来像	・これからの時代は、「発展」でなく「持続」 ・都市政策と農業政策との整合、意見交換が重要 ・各課からの自由意見
第4回 作業部会	2月15日	・都市計画の基礎知識 ・目標と将来像	・人口フレームの調整
第2回 幹事会	3月7日	・目標・将来像、全体構想	・討議ポイントを明確にした資料作成の要請
第2回 委員会	3月24日	・目標・将来像、全体構想	・地域協議会の取り組み内容の確認 ・神岡工業団地、組合病院移転に関する質疑 ・歴史を活かした地域活性化 ・大曲駅周辺の方向性の確認 など
第5回 作業部会	5月26日	・昨年度の報告 ・主な検討テーマの進め方	・土地利用の方針に関する意見交換
第3回 幹事会	8月1日	・土地利用の方針 ・地域別構想の進め方	・中心市街地及び郊外開発の方針について庁内調整 ・地域別構想での記載内容の精査が必要

	日時	議題	主な意見
第3回 委員会	9月22日	・中核拠点の方向性 ・各地区の集落等の方向性	・現地視察会の提案 ・「商店街から生活街への転換」に関する質疑 ・「観光」に関する計画も必要 ・各地区の現況・課題について確認
現地 視察会	10月14日	・大曲、仙北、太田、中仙、 神岡地域の主たる地区を 視察	・国道13号沿道の動向 ・中心市街地再生の状況を確認 ・太田地域の都市構造（集約型）を確認 ・神岡工業団地予定地、神宮寺駅周辺を視察
地域別 懇談会	11月19日～ 12月6日	・地域別構想（現況、課題、 方針、方策）	・人口減少、高齢化を危惧する意見 ・小規模集落の持続に関する意見 ・観光施策より定住施策を重視すべき ・今後もまちづくりに関する意見交換の継続が必要
第6回 作業部会	平成21年 2月5日	・地域別構想 ・実現化方策 ・計画書の全体構成	・地域別構想・実現化方策に関する意見交換
第4回 幹事会	2月13日	・地域別構想 ・実現化方策 ・計画書の全体構成	・地域別構想・実現化方策に関する意見交換 ・都市計画マスタープランの範疇の明確化
市長・副市 長中間報告	2月19日 2月20日	・計画概要の報告	・計画概要に関する意見交換
第4回 委員会	3月6日	・地域別構想 ・実現化方策 ・計画書の全体構成	・「機能集約型のまちづくり」に関する質疑 ・各地域別構想について確認 ・市民に伝えるために取り組みが必要
議会報告	3月11日 3月18日	・計画概要の報告	—
都市計画 審議会	3月19日	・中間報告	中間報告
パブコメ 意見募集	4月1日から 4月30日	・都市計画マスタープラン （案）に対する意見	・意見なし
県協議	4月15日	・進捗報告	・区域マスタープランとの整合など
第7回 作業部会	平成21年 5月21日	・最終確認	・上位関連計画との整合など
第5回 幹事会	平成21年 5月26日	・最終確認	・内容の確認

2. 前回からの主な意見と対応事項

前回の委員会での主な意見とその対応について以下に示します。

【前回委員会】より
① 機能集約型まちづくりに関する意見と対応
<ul style="list-style-type: none">・和合地区までの市街地拡大についてはとまどいを感じる。・現在の都市計画は、開発の後追いのようである。・国道13号沿道の開発が進むことで、国道105号沿道の衰退といった影響が懸念される。・個人で大手資本等による土地買収などの抑制は難しい。行政などが計画的に土地利用を考え、開発圧力を止める必要がある。・雇用創出も大事であるが、大型商業施設と中心市街地の商店街の共存は困難である。<ul style="list-style-type: none">→ 商工側、農業側、市民側の意見から、それぞれの視点を考慮した折衷的な案とする。最良（ベスト）とはいえないが、ベターな案として都市づくりの方向性を示した。また、意見を踏まえ、市街地拡大をめざすのではないという表現を加えた。・昨年10～12月に市民の商業意識動向を把握するため、400世帯にアンケート調査を実施した。結果を確認してはどうか。<ul style="list-style-type: none">→ 便利という意見をもつ消費者も多い。
② 地域別構想に関する意見と対応
<ul style="list-style-type: none">・中心市街地を考えるうえで、ヤマサの倒産、組合総合病院の移転などは無視することはできない。都市機能として中心市街地の「あるべき姿」を示すべきである。<ul style="list-style-type: none">→ 「中心市街地活性化基本計画」の策定によって、具体的な施策が示されることを記載した。 ※中活計画や組合病院等の件については、これ以上の表現はしない。・花火などを活かしたさまざまな取り組みが必要である。交流人口拡大に向けた勉強会の開催などを積極的に進めていくべきである。<ul style="list-style-type: none">→ 意見を参考に今後の展開に活かしていく。（まちづくりシンポジウムなど）・大曲地域の西部丘陵地は開発も進んでおり、「緑の環境保全エリア」とする考えは妥当であろうか。<ul style="list-style-type: none">→ 保全のみでなく、活用を図る場としても考えているため、「市民の良好なレクリエーション空間として活用を図る」ことも記載した。・地域内交流軸の路線がわからない。<ul style="list-style-type: none">→ 文章中に路線名を記載するよう改めた。・文章の語尾の言い回しに差異がある。<ul style="list-style-type: none">→ 巻頭に「本書の読み方」として表現解説を追記した。

③ 地域別構想に関する意見と対応

- ・「産業拠点」については、既存の工業団地から撤退する企業もみられる状況であるため、企業誘致というより、規模縮小などが考えられるのではないかと。また、大和田工業団地に企業の集積はない。

→企業対策室と調整し、各地域の産業拠点の見直しを行った。

- ・空き家や空き地の有効活用については、実態を分析した上での記載か。

→マスタープランの検討にあたっては、空き家や空き地の分析までは実施していない。

- ・大規模工業団地は、雇用促進、定住確保など地域としての期待は高い。ただし、実現した際には、改修した神宮寺駅が手狭になることなど、別の問題も懸念される。

→マスタープランでは、県への働きかけという表現にとどめる。

- ・将来人口推計について、平成17年から20年の推移をみれば、平成22年にここまで減少しないと考える。

→推計人口については、あくまで参考値と考えていただきたい。このように減少させないためには何をすべきかを考えたい。

- ・人口減少が激しい。原因は、住環境問題や冬期の道路環境などにあると考える。大曲地域との結びつきが強いため、定期循環バスなどの対策が必要ではないかと考えている。

→公共交通の充実などを盛り込む。

- ・観光は、温泉などの資源もあるが、受け入れ態勢（ホスピタリティ：おもてなしサービス）が整っていない。

→参考意見としてうかがう。

- ・道路関係については、今ある道路のことだけが記載されているが、大曲鷹巣道路など、広域連携に寄与する新設道路の構想があっても良いのではないかと。

→「機能強化のため、国や県が進めている道路整備の促進に向けた活動に努める」記載とした。

- ・都市計画道路の再検討をお願いしたい。大曲地域については、仙北地域からの接続が悪いなどの問題もある。

→マスタープランにおいて、長期未着手都市計画道路の見直しは記述している。個別検討は、今後実施していくこととなる。

④ 実現化方策に関する意見とその対応

- ・大仙市の魅力を伝え、アピールすることが必要である。20年後も美しく、夢のあるまちとするために、今からまちづくりについて勉強会やイベントを開催する必要がある。また、今後は環境問題が更に重要になってくると考える。

→勉強会として、まちづくりシンポジウムを企画する。

- ・実現化方策の中で地域協議会と書かれているが、大曲地域については平成22年度に「地域コミュニティ会議」を設立する予定であるため、これも記載願いたい。

→「地域コミュニティ会議」を追記した。

- ・行政と市民の協働については、市民の理解が必要であり、町内会や自治会で勉強する機会が必要である。

→勉強会として、まちづくりシンポジウムを企画する。

- ・次世代を担うリーダーが必要であり、次世代の学習活動に力を入れてほしい。

→実現化方策の最後の行政支援のところでまちづくり指導者の育成を記している。

- ・都市マスタープランを市民に伝えるために何か取り組む必要がある。

→パブリックコメントを行った。また、まちづくりシンポジウムを開催する。

⑤ 計画書の全体構成に関する意見と対応

- ・資料1の21頁の上位関連計画で、都市計画の基本理念などを示し、将来像のテーマ的なものを記載する必要があるのではないか。

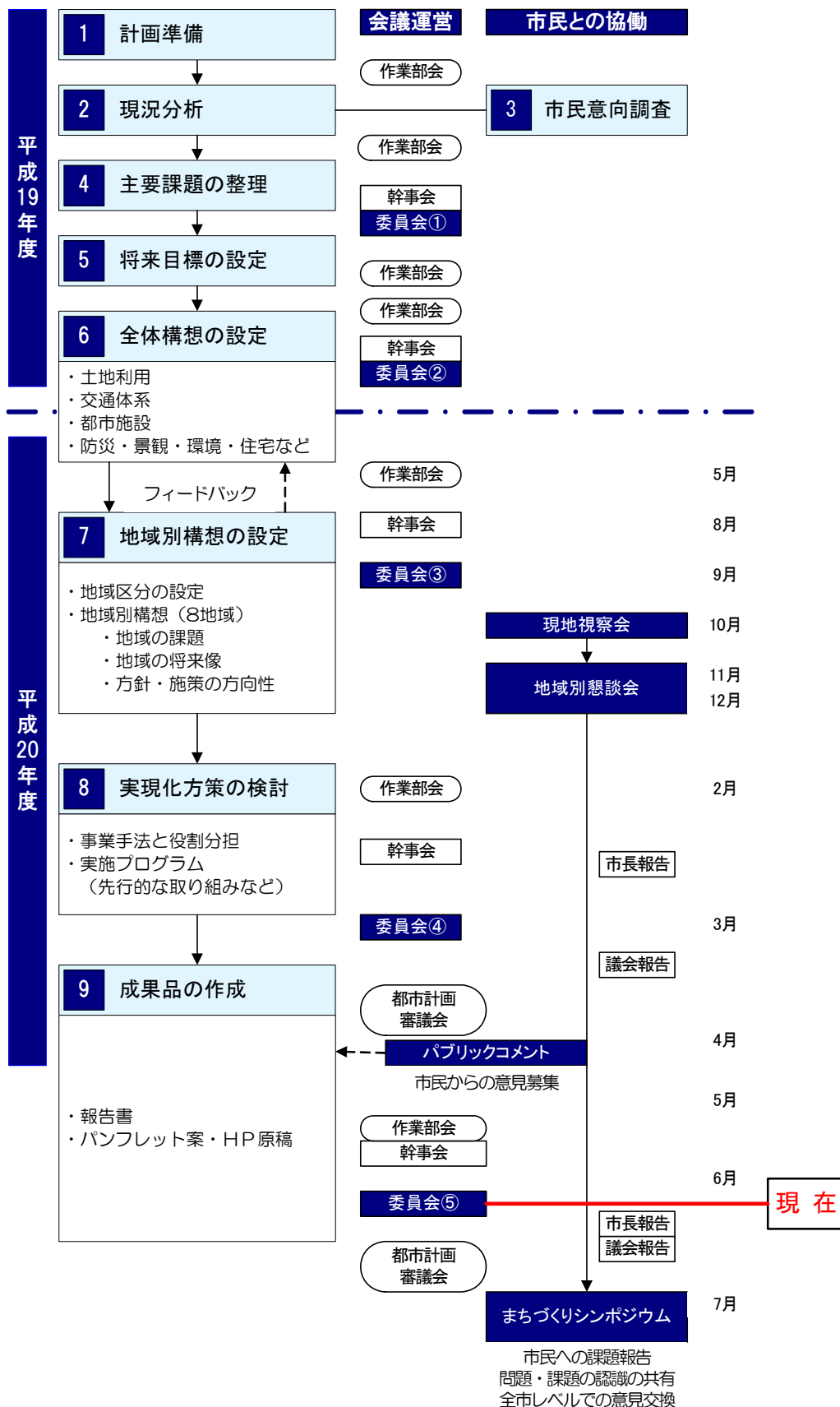
→第4章大仙市の将来像の中で、都市計画の範疇で何をすべきかを記載した。

【パブリックコメント】より

- ・意見なし

3. 今後の予定

今回の意見を踏まえ最終の計画書とします。また、「まちづくりシンポジウム」は、計画策定時のキックオフイベントとして開催する予定です。



4. まちづくりシンポジウム（案）

■目的

- ・都市計画マスタープランの概要報告
- ・市民との協働のまちづくりに関する意識啓発

■開催予定

- 【日時】 平成21年7月24日（金）（予定）
【会場】 市民会館 小ホール （収容300名程度）

■プログラム（3時間：13:30～16:30）

- （1）開会あいさつ（10分） 市長
- （2）都市計画マスタープランの概要説明（20分） 都市計画課
 - 1）都市計画マスタープランとは
 - 2）概要版報告（大仙市の将来像）、詳細な計画書の閲覧方法のお知らせ
- （3）基調講演（30分） 山口委員長
「今、地方都市のまちづくりに求められるもの」
- （4）休憩（10分）
- （5）パネルディスカッション（100分）
 - 1）活動紹介（50分） 司会・紹介 都市計画課
 - パソコン（PPT）を用いた活動紹介
 - 配布資料準備（プロフィール・概要程度）
 - ① 土屋館衆「土屋館わいわい広場」の取り組み（大仙市）（15分）
 - ② 「新屋まちづくり」の取り組み（秋田市）（20分）
 - ③ 市内活動グループの取り組み（大仙市）（15分）
（例：かわまちづくり、グリーンツーリズムなど農村集落での活動）
 - 2）ディスカッション（50分） コーディネーター（進行） 山口委員長
・テーマ（案） 「市民と協働でこれからのまちづくりを進めていくために」
- （6）事務連絡（5分） 都市計画課
- （7）閉会あいさつ（5分） 副市長

5. 計画策定後の取り組み（重点施策）

1 土地利用や道路整備に関する都市計画手続きの展開

【行政が主体となって実施】

- 都市計画区域の再編・拡大に関する都市計画決定（県との調整に向けて準備中）
- 用途地域の再編や特定用途制限地域等の制度を活用した土地利用コントロールのための都市計画決定（準工業地域の特別用途地区の都市計画決定手続き中）

【市民や事業者との連携・協働により実施】

- 市民や事業者の立場で発意し、自らルールをつくっていけるような仕組み（条例、協定等）・組織づくりと積極的な参加（今後検討）

2 計画的な都市施設の整備等

【行政が主体となって実施】

- 「道路網整備計画」の策定による道路網の計画的な整備の推進（今後検討）
- 長期未着手都市計画道路の再編、見直し（一部の路線について検討中）
- 「緑の基本計画」の策定による公園等の利用促進と緑の保全・創造（今後検討）
- 河川の無堤防区間の改修等、計画的な河川改修事業の促進（継続実施中）
- 「大仙市生活排水処理整備構想」に基づく下水道等の整備の推進（継続実施中）
- 「住宅マスタープラン」（住生活基本計画）の策定による魅力的な住環境形成（今年度実施に向けて予算化）
- 「公営住宅ストック総合活用計画」の策定による計画的な公営住宅の供給（今年度実施に向けて予算化）
- 「大仙市耐震改修促進計画」に基づき、安全な都市づくりのための施策の推進（継続実施中）

3 都市構造の再編と中心市街地活性化

【行政が主体となって実施】

- 「中心市街地活性化基本計画」の策定と、計画に基づく都市基盤整備（策定に向けて検討中）
- 土地区画整理事業等の事業の推進（継続実施中）
- まちなか居住を推進するための公営住宅の整備や民間開発の誘導（今後検討）
- 安全で歩きやすい歩行環境の実現に向けた検討（今後検討）
- 来訪しやすさ、まちなかの移動に利用しやすい公共交通の拡充（継続実施中）

【市民や事業者との連携・協働により実施】

- 商店主等が主体となった商店街活性化のためのソフト事業の展開（継続実施中）
- 中心市街地の魅力の創出に向けたソフト事業の展開（継続実施中）
- まちづくり活動拠点として、「ペアーレ大仙」の有効活用（継続実施中）
- 空地や空き店舗の活用に向けた検討（共同店舗や福祉施設、ポケットパーク等）（今後検討）
- 魅力的な街並み景観の形成に向けた検討（緑化協定や建築協定等）（今後検討）
- まちづくりに関わる各種組織の横断的連携の促進（きっかけづくりとなるまちづくりシンポジウムの開催）

4 地域住民等との協働による持続可能な地域づくり(地域別構想の推進)

【行政が主体となって実施】

- 地域住民等との協働による地域づくりに関する計画の策定のための行政支援（情報提供、技術支援等）（まちづくりシンポジウムでのきっかけづくりをはじめ、今後検討）
- 地域拠点、生活拠点の機能強化のための各種支援事業等を活用した事業展開（一部、まちづくり交付金を活用した事業展開中）
- 「生活拠点」と「地域拠点」、「中核拠点」を有機的に結ぶ生活交通の維持・再編のための検討（公共交通施策等、鉄道の有効活用、冬期の交通確保等）（一部継続実施中）
- 農業、観光、歴史・文化、福祉、教育などの他分野との連携を図りながら、暮らしやすい地域の実現に向けた課題への取り組み（地域資源や農林業を活かした地域観光の振興、小規模集落の維持など）（関連計画の推進）

【市民や事業者との連携・協働により実施】

- 地域協議会や自治会等の組織を主体として、住民の発意による問題提起や地域づくりに関する計画の検討（地域拠点や生活拠点のあるべき姿の検討など）（今後検討）
- 地区レベルでの土地利用や景観形成等に関するルールづくりの検討（今後検討）

6. 計画策定後の委員会の役割

- 関連計画等における委員会メンバーとしての参画（マスタープランの考えを継承）
- 都市計画マスタープランのPRやまちづくり活動等の実践（各地域での活動など）
- 計画の進行管理への関心・関与

7. 正誤表

事前配布資料から本日までに修正を行った主な事項を以下に記します。

頁	箇所	誤	正
14	見出し	2) 人口分布	3) 人口分布
16	本文 2 行目	比べて約大きく	比べて大きく
20	本文 3 行目	農家戸数は 8,469 戸、農業従事人口は 12,193 人	農家戸数は 8,469 戸（平成 17 年）、農業従事人口は 12,193 人（平成 17 年）
21	本文 1 行目	195.6 万人（平成 19 年）	195.6 万人（平成 18 年）
21	本文 2 行目	91.1 万人と	91.1 万人（平成 18 年）と
24	見出し	（2）土地利用のあり方	（3）土地利用のあり方
30	本文 1 行目	本市の人口は、現在の約 7 割	本市の人口は、平成 42 年に現在の約 7 割
34	一番下		写真追加
36	下の図	協和温泉	協和温泉四季の湯
37	本文 6 行目	市内各地域への往来しやすさ	市内各地域への往来のしやすさ
48	下の写真		写真差し替え
54	本文 5 行目	都市的土地利用みられる箇所もみられます。	都市的土地利用がみられます。
58	「4) 公共公益」の本文 1 行目	これまで、	これまでは、
63	大仙市道路網		広域農道追加
68	道路・交通整備方針図		広域農道追加
69	本文 1 行目	面積 451.96ha	面積 425.24ha
69	公園状況		数字修正
69	公園配置図		公園追加
70	「3) 貴重な」の本文 3~4 行目	これらを環境保全	これらの環境保全
73	本文 2 行目	昭和 22 年 7 月洪水や昭和 62 年 8 月洪水等	昭和 22 年 7 月の洪水や昭和 62 年 8 月の洪水等
100	「(5) 都市づくりの施策 2) 都市施設」の②の文	連携強化のため	連携強化を図るため
101	「3) 都市施設」の②の文	樹林等によって結びつけ	樹林等によってそれらを結びつけ
120	「1) 土地利用」の本文 4 行目	多様な地形点在する	多様な地形が点在する
121	現況図		施設位置修正
138	「(1) 地域の概況」の本文最終行	美郷町千畑地域	美郷町六郷地域
139	「(6) まちと暮らし」の本文 4 行目	温泉施設を中心に	温泉施設やスキー場を中心に
139	現況図		施設位置修正
142	「(5) 都市づくりの施策 1) 土地利用」の②の文	集積地という地域特性を	集積地という特性を